

ME リモコン PAR-F30ME

据付工事説明書

販売店・工事店さま用

この説明書をよくお読みいただき正しくお使いください。

この説明書は大切に保管してください。

お使いになる方が代わる場合には、本書と「取扱説明書」をお渡しください。

お客様ご自身では、据付・移設をしないでください。(安全や機能の確保ができません。)

この製品は日本国内向けに設計されており、本紙に記載の内容は日本国内においてのみ有効です。また、海外でのアフターサービスもお受けできませんのでご了承ください。

This appliance is designed for use in Japan only and the contents in this document cannot be applied in any other country.

No servicing is available outside of Japan.

もくじ

	ページ
<u>安全のために必ず守ること</u>	2
第1章 据付.....	10
1. 各部の名称と付属品.....	10
2. 現地手配部品 / 必要工具.....	10
(1) 現地手配部品.....	10
(2) 必要工具.....	10
3. システム図.....	11
4. 据付方法.....	12
(1) 据付場所の選定.....	12
(2) 据付周囲空間.....	14
(3) 据付作業.....	14
5. 重要.....	19
第2章 初期設定.....	20
1. 初期設定.....	20
(1) 初期スタートアップ設定.....	20
(2) 初期設定画面.....	21
2. メニュー (サービス).....	22
(1) 初期設定メニュー.....	24
(2) 異常メニュー.....	26
(3) 試運転.....	26

安全のために必ず守ること

- ◆この「安全のために必ず守ること」をよくお読みのうえ、据付けてください。
- ◆ここに記載した注意事項は、安全に関する重要な内容です。必ずお守りください。

	警告	取扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷を負うことが想定される危害の程度
	注意	取扱いを誤った場合、使用者が軽傷を負うことが想定されるか、または物的損害の発生が想定される危害・損害の程度

- ◆図記号の意味は次のとおりです。



- ◆お読みになったあとは、お使いになる方に必ず本書をお渡しく下さい。
- ◆お使いになる方は、本書をいつでも見られるところに大切に保管してください。移設・修理の場合、工事をされる方にお渡しく下さい。また、お使いになる方が代わる場合、新しくお使いになる方にお渡しく下さい。

電気配線工事は「第一種電気工事士（工事条件によっては第二種電気工事士）」の資格のある者が行うこと。

一般事項

警告

特殊環境では、使用しないこと。

- ◆ 油・蒸気・有機溶剤・腐食ガス（アンモニア・硫黄化合物・酸など）の多いところや、酸性やアルカリ性の溶液・特殊なスプレーなどを頻繁に使うところで使用した場合、著しい性能低下・腐食によるけが・感電・故障・発煙・火災のおそれあり。



使用禁止

水・液体で洗わないこと。

- ◆ ショート・漏電・感電・故障・発煙・発火・火災のおそれあり。



水ぬれ禁止

ぬれた手で電気部品に触れたり、スイッチ・ボタンを操作したりしないこと。

- ◆ 感電・故障・発煙・発火・火災のおそれあり。



ぬれ手禁止

掃除・整備・点検をする場合、運転を停止して、給電用電源を切ること。

- ◆ けが・感電のおそれあり。



感電注意

薬品を散布する前に運転を停止し、コントローラにカバーを掛けること。

- ◆ 薬品がコントローラにかかって損傷すると、けが・感電のおそれあり。



感電注意

据付・点検・修理をする場合、周囲の安全を確認すること。（子どもを近づけないこと）

- ◆ 工具などが落下した場合、けがのおそれあり。



指示を実行

異常時（こげ臭いなど）は、運転を停止して電源スイッチを切ること。

- ◆ お買い上げの販売店・お客様相談窓口に連絡すること。
- ◆ 異常のまま運転を続けた場合、感電・故障・火災のおそれあり。



指示を実行

カバーを取り付けること。

- ◆ 不備がある場合、ほこり・水などによる感電・発煙・発火・火災のおそれあり。



指示を実行

端子台カバー・絶縁シートを外さないこと。

- ◆ ほこり・水が入ると、感電・発煙・火災のおそれあり。



指示を実行

注意

製品の近くに可燃物を置かないこと。また、可燃性スプレーを使用しないこと。

- ◆ 引火・火災・爆発のおそれあり。



使用禁止

先のとがった物で表示部・スイッチ・ボタンを押さないこと。

- ◆ 感電・故障のおそれあり。



使用禁止

ガラス部品に損傷するような力を加えないこと。

- ◆ 損傷によるけがのおそれあり。



禁止

部品端面に触れないこと。

- ◆ けが・感電・故障のおそれあり。



接触禁止

保護具を身につけて作業すること。

- ◆ 保護具を付けないとけがのおそれあり。



指示を実行

据付工事をするときに

⚠ 警告

可燃性ガスの発生・流入・滞留・漏えいのおそれがあるところにコントローラを設置しないこと。

- ◆ 可燃性ガスがコントローラの周囲にたまると、火災・爆発のおそれあり。



据付禁止

梱包材は破棄すること。

- ◆ 窒息事故のおそれあり。



指示を実行

地震に備え、所定の据付工事を行うこと。

- ◆ コントローラの落下によるけがのおそれあり。



指示を実行

コントローラの質量に耐えられるところに据え付けること。

- ◆ コントローラの落下によるけがのおそれあり。



指示を実行

⚠ 注意

コントローラは水のかかるところや高湿度で結露するところには据え付けないこと。

- ◆ ショート・漏電・感電・故障・発煙・発火・火災のおそれあり。



水ぬれ禁止

コントローラの据付けは、販売店または専門業者が据付工事説明書に従って行うこと。

◆ 感電・火災のおそれあり。



指示を実行

電気工事をするときに

警告

電源配線は信号端子台に接続しないこと。

◆ 機器損傷・故障・発煙・火災のおそれあり。



接続禁止

製品に指定以外の電源電圧を接続しないこと。

◆ 機器損傷・故障・発煙・火災のおそれあり。



接続禁止

配線に外力や張力が伝わらないようにすること。

◆ 伝わった場合、発熱・断線・発煙・発火・火災のおそれあり。



発火注意

端子接続部に配線の外力や張力が伝わらないように固定すること。

◆ 発熱・断線・発煙・発火・火災のおそれあり。



発火注意

電気工をする前に、主電源を切ること。

◆ けが・感電のおそれあり。



感電注意

電気工事は第一種電気工事士（工事条件によっては第二種電気工事士）の資格のある者が、「電気設備に関する技術基準」・「内線規程」および据付工事説明書に従って行うこと。電気配線には所定の配線を用い専用回路を使用すること。

- ◆ 電源回路容量不足や施工不備があると、感電・故障・発煙・発火・火災のおそれあり。



指示を実行

電源配線には、電流容量などに適合した規格品の配線を使用すること。

- ◆ 漏電・発熱・発煙・発火・火災のおそれあり。



指示を実行

D種接地工事（アース工事）は第一種電気工事士（工事条件によっては第二種電気工事士）の資格のある電気事業者が行うこと。アース線は、ガス管・水道管・避雷針・電話のアース線に接続しないこと。

- ◆ 感電・ノイズによる誤動作・発煙・発火・火災・爆発のおそれあり。



アース接続

注意

端子台に配線の切くずが入らないようにすること。

- ◆ ショート・感電・故障のおそれあり。



感電注意

配線引込口をパテでシールすること。

- ◆ 露・水が浸入すると、感電・故障・火災のおそれあり。



指示を実行

移設・修理をするときに

警告

移設・修理をする場合、販売店または専門業者に依頼すること。分解・改造はしないこと。

- ◆ 不備がある場合、けが・感電・火災のおそれあり。



禁止

注意

基板を手や工具などで触ったり、ほこりを付着させたりしないこと。

- ◆ ショート・感電・故障・火災のおそれあり。



接触禁止

お願い

据付・点検・修理をする場合、適切な工具を使用してください。

- ◆ 工具が適切でない場合、機器損傷のおそれあり。

ベンジンやシンナー、化学雑巾などでコントローラに触れないでください。

- ◆ 汚れがひどい場合、水でうすめた中性洗剤を布につけ、よく絞った状態でふき取り、乾いた布でふきあげること。
- ◆ 変色のおそれあり。

病院・通信・放送設備がある事業所などに据付ける場合、ノイズに対する備えを行ってください。

- ◆ インバーター機器・自家発電機・高周波医療機器・無線通信機器などの影響による、製品の誤動作・故障のおそれあり。
- ◆ 製品側から医療機器に影響を与え、人体の医療行為を妨げるおそれあり。
- ◆ 製品側から通信機器に影響を与え、映像放送の乱れや雑音の弊害が生じるおそれあり。

電源配線と信号配線を結束したり同じ金属管に収納したりしないでください。

◆ 誤動作のおそれあり。

コントローラを導電性があるところ（塗装をしていない金属面など）に据え付けしないでください。

◆ 故障・誤動作のおそれあり。

ネジを締めすぎないでください。

◆ 損傷するおそれあり。

マイナスインプルドライバーをコントローラのツメにはめ込んだ状態で強く回転させないでください。

◆ ケースが損傷するおそれあり。

マイナスインプルドライバーをコントローラのツメに強く差し込まないでください。

◆ 基板が損傷するおそれあり。

コントローラのケースに追加穴を開けないでください。

◆ 損傷するおそれあり。

直射日光のあたる場所、または周囲温度が 40℃以上・0℃以下になる場所にコントローラを据え付けしないでください。

◆ 変形・故障のおそれあり。

コントローラの配線を端子台に接続する際に、圧着端子を使用しないでください。

◆ 基板と接触し故障のおそれあり。
◆ カバーと接触しカバー損傷のおそれあり。

第 1 章 据付

この据付工事説明書は、三菱電機ビル空調管理システムの拡張型であるシティマルチ空調室内ユニットに使用する本 ME リモコンの据付方法について説明します。

据付作業を始める前に、リモコンに付属するこの据付工事説明書と取扱説明書をよくお読みください。記載されている指示に従わない場合、装置が損傷する恐れがあります。

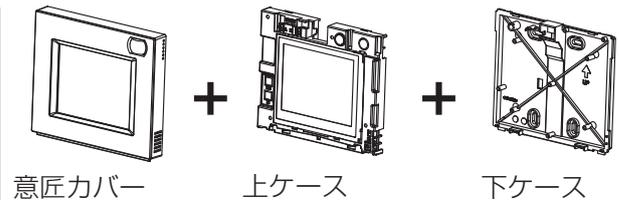
空調機の配線方法や据付方法については、空調機の据付工事説明書を参照してください。

据付後、このマニュアルはお使いになる方に手渡してください。

1 各部の名称と付属部品

箱の中には下記部品が入っています。

部品名	数量
リモコン（意匠カバー）*1	1
リモコン（上ケース）*1	1
リモコン（下ケース）	1
十字穴付きナベネジ M4×30 *2	4
木ネジ 4.1×16 *2 （壁に直接取付ける時使用）	4
据付工事説明書（本マニュアル）	1
取扱説明書	1



*1 工場出荷時、意匠カバーは上ケースに取り付けられた状態になっています。

*2 ISO 準拠ネジ切り

*3 リモコンケーブルは同梱されていません。

2 現地手配部品 / 必要工具

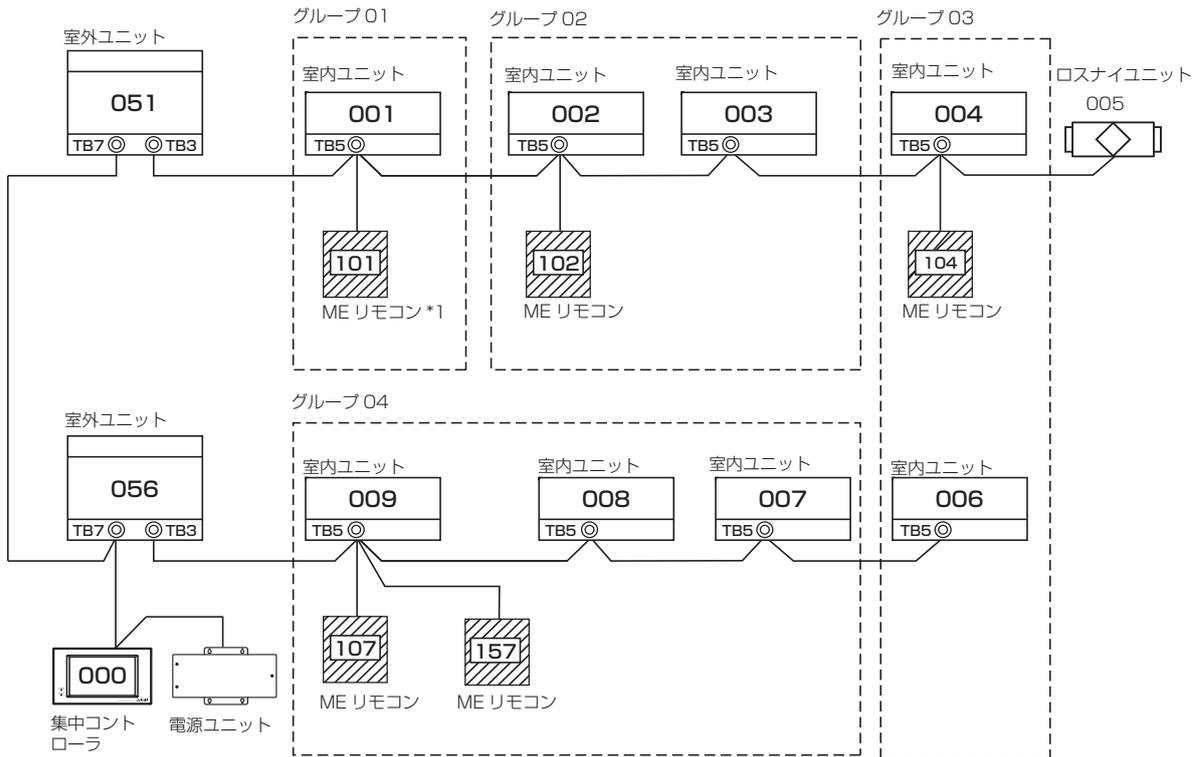
(1) 現地手配部品

部品名	数量	注記
スイッチボックス：2 個用	1	
薄鋼電線管	必要に応じて。	壁面に直接据付ける場合は不要です。
ロックナットおよびブッシング	必要に応じて。	
ケーブルカバー	必要に応じて。	リモコンケーブルを壁面に這わす場合に必要です。
パテ	必要に応じて。	
モリーアンカー	必要に応じて。	
リモコンケーブル (0.3 mm ² (AWG 22) 2 芯被覆ケーブル)	必要に応じて。	リモコンケーブルが 10 m を超える場合、次の仕様を満たす電線を使用してください。 CVVS：1.25 mm ² (標準 AWG 16) または同等品 CPEVS：ø1.2 mm (標準 AWG 16) または同等品

(2) 必要工具

- ・ マイナスドライバ（幅：4-5.5 mm）
- ・ ナイフまたはニッパー
- ・ その他一般工具

3 システム図



*1 本機の消費電力係数は「2」です。
ME リモコンの数が多く、必要とされる総電力が室外ユニットの給電能力を上回る場合は、伝送線用給電拡張ユニット (PAC-SF46EP) が必要です。

給電能力係数		消費電力係数	
室外ユニット	伝送線用給電拡張ユニット	室内ユニット	本機
128	100	4 (*2)	2

*2 : P224 以上の機種は「24」

- (1) リモコンからの配線
 - ・室内ユニットの TB5 (室内 - 室外伝送線用端子台) への接続を行います。
 - ・端子台には極性はありません。端子 A と B に接続します。
- (2) グループ運転する場合
 - ・グループ運転する室内ユニットの親機のアドレスにリモコンのアドレスを合わせます。親機のアドレスはグループ内の最小アドレスになります。この親機アドレス +100 にリモコンアドレスを設定します。
- (3) リモコンの主 / 従設定
 - ・1 グループに主リモコンと従リモコンの 2 台接続できます。
 - ・アドレス設定

	アドレス設定範囲	設定方法
主リモコン	101 ~ 150	同一グループ内の最も若い室内ユニット親機アドレス +100 に設定してください。
従リモコン	151 ~ 200	同一グループ内の最も若い室内ユニット親機アドレス +150 に設定してください。

<p>⚠ 注意</p>	<p>- リモコン同士の渡り配線はしないでください。 リモコンの端子台には配線は 1 本しか接続できません。</p> <p>- ME リモコンおよび MA リモコンを、同じグループに接続することはできません。</p>	
-------------	--	--

4 据付方法

本リモコンは壁面に据付ける仕様となっています。「スイッチボックスを使用する」または「壁面に直接据付ける」が選択できます。

「壁面に直接据付ける」場合、配線取り出し方法を「背面取り出し」または「上部取り出し」から選択できます。

(1) 据付場所の選定

リモコン（スイッチボックス）を、次の条件を満たす場所に据え付けます。

(a) 据付け面が平らな所

(b) リモコンが正確に室温を測定できる場所

室温を感知する温度センサは、室内ユニットとリモコンの両方に付いています。リモコンの温度センサを使用して室内温度を検知する場合は、主リモコンに設定したリモコンが室温を検知します。この場合、下記事項を守ってください。

- 正確な室温の測定を行うため、直射日光、熱源、および室内ユニットの吹き出し口から離れた場所にリモコンを据え付けてください。
- 平均的な室温を測定できるような場所に、リモコンを据え付けてください。
- 正確な室温を測定できるように、リモコンの温度センサの周りに配線がない場所で、通気口を遮るものが無い場所に据え付けてください。
- 高濃度の酸、アルカリ、または揮発性有機化合物の影響を受ける場所にコントローラを据え付けしないでください。

(c) リモコンが人の検知と照度検知を適切に行える場所

リモコンには、人感センサと照度センサが実装されています。

それぞれのセンサには、検知領域があります。

- センサの検知可能領域が適切な空間をカバーできる場所にリモコンを据え付けてください。人感センサが人を検知できる距離は、約 10 m です。

人感センサ

水平方向

垂直方向

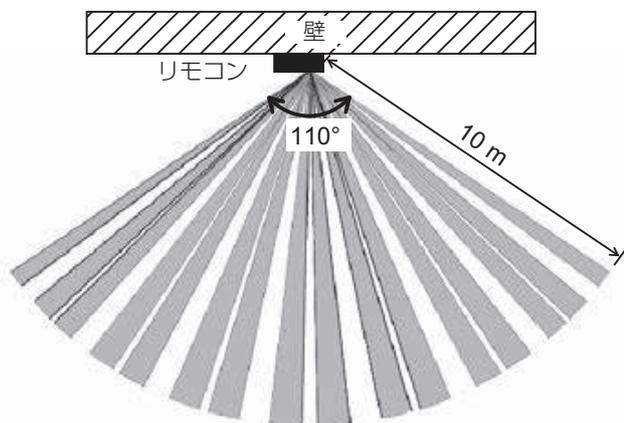


図 1

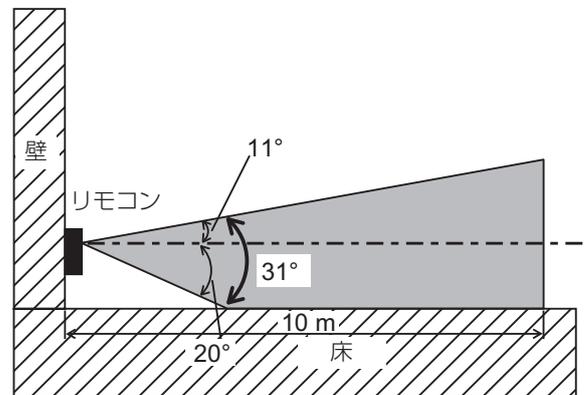


図 2

■：検知領域

* 人感センサの特性として、人感センサに向かってくる動き、または人感センサから遠ざかる動きよりも、■に示される領域を横断する動きに対して感度が高くなります。

人感センサは、人の動きによる検知域内の赤外線量の変化を捉え、人の存在を検知します。そのため、人の動きが無ければ人を検知することができません。また、人と周囲環境の温度差が小さいときには、人感センサの検知感度は低下します。

- 誤検知を防止するため、据付位置は注意して選定してください。

人感センサが誤検知をおこしやすい要因

- リモコンへの直射日光
- リモコンに直接かかる風
- 検知域内の可搬ヒーター（首振式電気ヒーターなど）
- リモコンに対する過度な振動や大きな衝撃
- 強い電気ノイズ
- 犬や猫などの動物の動き

照度センサ

水平方向

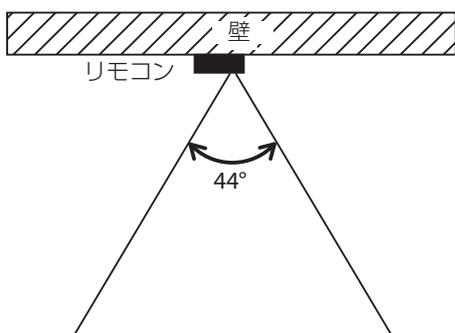


図 3

垂直方向

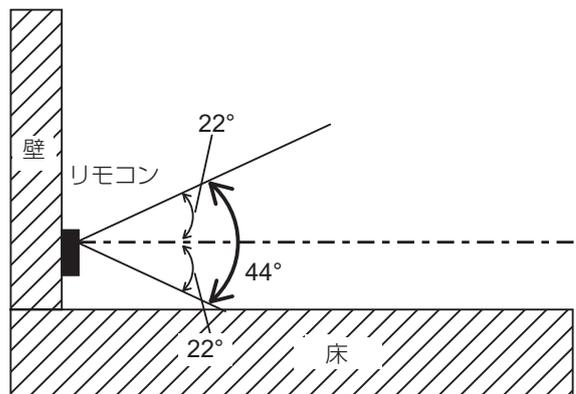


図 4

取扱いについての留意事項

- レンズに傷がつかないようにしてください。
- レンズの上に接着テープやラベルを貼らないでください。
- レンズの清掃には、柔らかい布を使用してください。

重要

リモコン設置壁面の表面付近の温度と実際の室温との差が大きい場所に据え付けしないでください。検知した室温と実際の室温を誤検知する可能性があります。

変形や誤動作を防止するため、直射日光があたり、周囲温度が 40°C を超えるか、または 0°C 未満になる可能性のある場所、あるいは相対湿度が 90% を超えるか、または 20% 未満になる可能性のある場所にリモコンを据え付けしないでください。

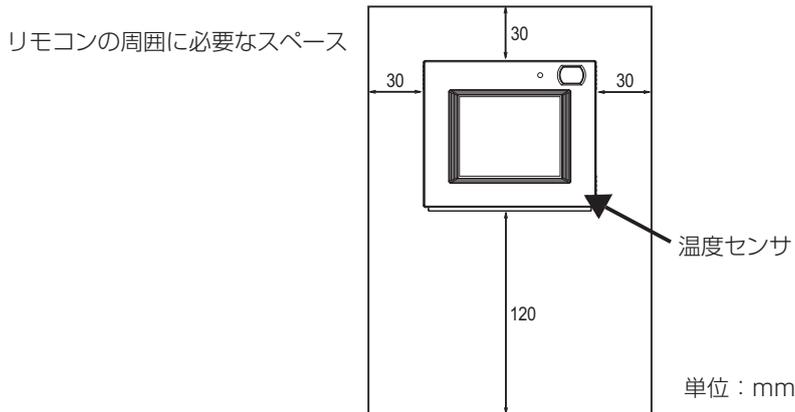
誤動作の可能性を抑えるため、水や油がかかる場所、あるいは結露や腐食ガスが発生する場所にリモコンを据え付けしないでください。

コーティングされていない金属プレートなど、導電性のあるものに直接リモコンを据え付けしないでください。

主リモコンと従リモコンを使用する空調グループで人感省エネ制御機能を使用する場合、どちらか一方のリモコンのみ、人感省エネ制御機能を有効にしてください。人感センサの検知領域が広いリモコンで人感省エネ制御機能を有効にすることをおすすめします。

(2) 据付周囲空間

リモコンをスイッチボックスに据え付ける場合または壁に直接据え付ける場合のいずれの場合でも、下の図に示すスペースを確保してください。スペースが不足するとリモコンを外しにくくなります。また、リモコン正面側には操作ができるスペースを確保してください。



(3) 据付作業

重要

基板を扱う際には、静電気により損傷させないよう気を付けてください。基板は絶縁シートで保護されていますが、一部露出している部分があります。基板に指先が触れないよう、特に気を付けてください。

据付工事には「スイッチボックスを使用する場合」と「壁面に直接据え付ける場合」があります。据付方法に応じて工事を行ってください。

1 壁面に据え付け用の穴をあける

■ スwitchボックスを使用する場合

- 壁に穴をあけ、スイッチボックスを取り付けます。
- スwitchボックスと電線管を接合してください。

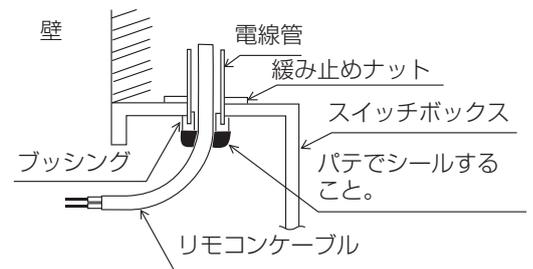
■ 壁面に直接据え付ける場合

- 壁に穴をあけ、リモコンケーブルを通します。
 - * リモコンケーブルを壁に這わせる場合、本作業は不要です。

2 リモコンケーブル引入口をシールする

■ スwitchボックスを使用する場合

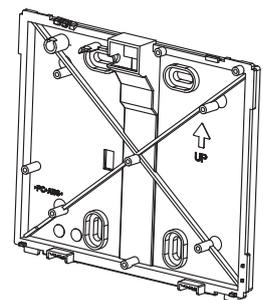
- スwitchボックスと電線管の接合部のリモコンケーブル引入口をパテでシールしてください。



感電、故障、火災などの危険性を防止するため、配線引入口をパテでシールします。

3 リモコンの下ケースを準備する

- * 壁面に直接据え付けを行い、リモコンケーブルを壁伝いに配線する場合に、この手順を行います。

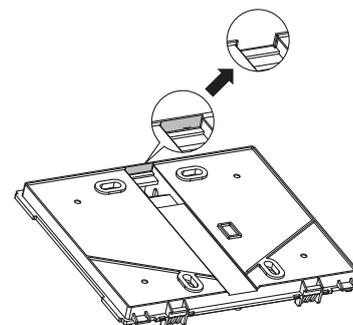


下ケース

- ・ ナイフまたはニッパーで、右図の影付き部分を切り取ります。

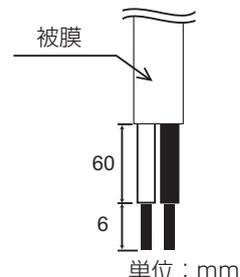
注意：

切り口をなめらかにし、配線を傷つけないようにしてください。



4 下ケースを取り付ける

- ・ リモコンケーブルを右図に示すように加工し、下ケースの背面から通した状態で、下ケースを取り付けます。



■ スイッチボックスを使用する場合

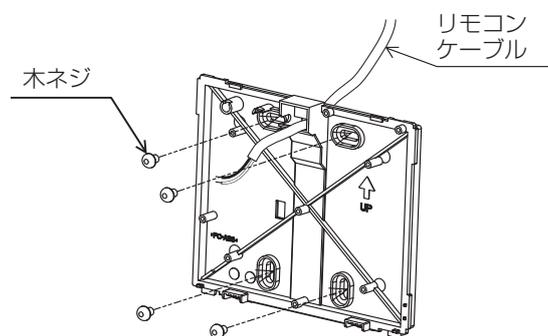
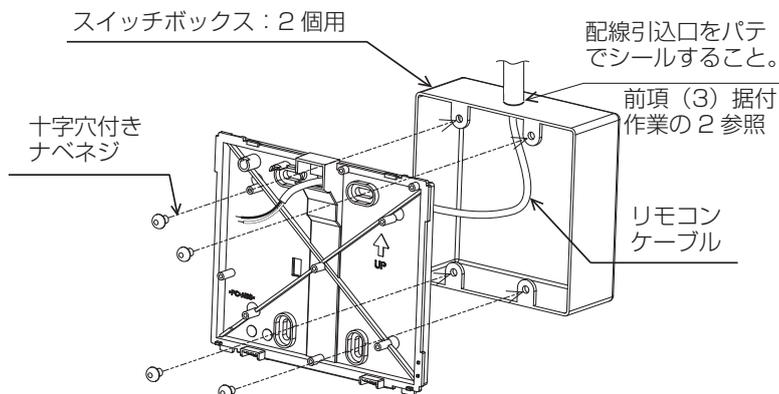
- ・ 下ケースをスイッチボックスに据え付ける場合は、必ず 2ヶ所以上固定してください。
- ・ 下ケースの左上と右下（前から見て）を固定して、浮き上がらないようにしてください。

■ 壁面に直接据え付ける場合

- ・ 下ケースを壁面に直接据え付ける場合は、必ず 2ヶ所以上固定してください。
- ・ 下ケースの左上と右下（前から見て）を固定して、浮き上がらないようにしてください。（モリーアンカーなどを使用して固定してください。）

■ スイッチボックスを使用する場合

■ 壁面に直接据え付ける場合



重要

ケースが損傷しないよう、ネジは締めすぎないでください。

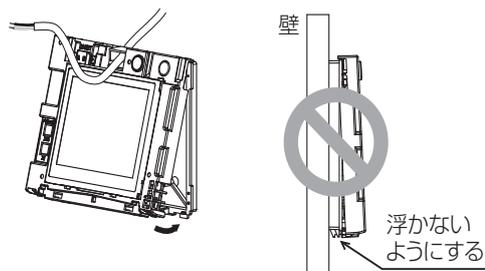
ケースに追加穴をあけないでください。

5 下ケースに上ケースを取り付ける

意匠カバーが上ケースに取り付けられた状態で出荷されています。

上ケースを取り付ける前に、上ケースから意匠カバーを外してください。

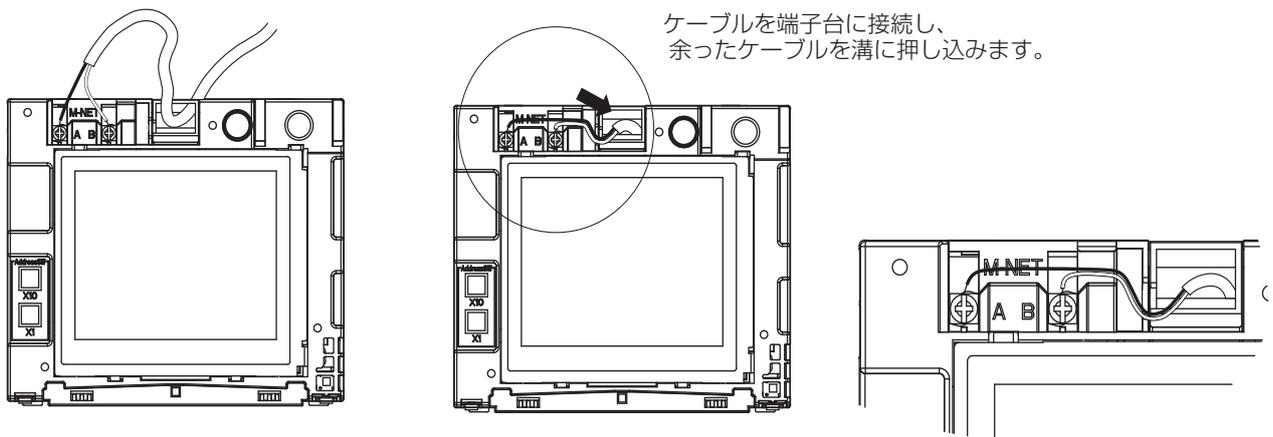
18 ページの「1 意匠カバーを取り外す」を参照してください。



上ケースの上部に 2 つの取付タブがあります。この 2 つのタブを下ケースに掛け、上ケースを“パチッ”と音がするまではめ込みます。ケースが正しく取り付けられ、浮きがないことを確認してください。

6 リモコンケーブルを、上ケースの端子台に接続する

リモコンケーブルを端子台に接続します。



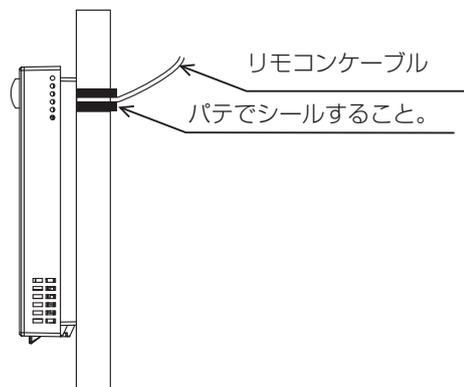
感電、ショート、故障を防止するため、ケーブルの切屑などが端子台部分に入らないようにしてください。

重要

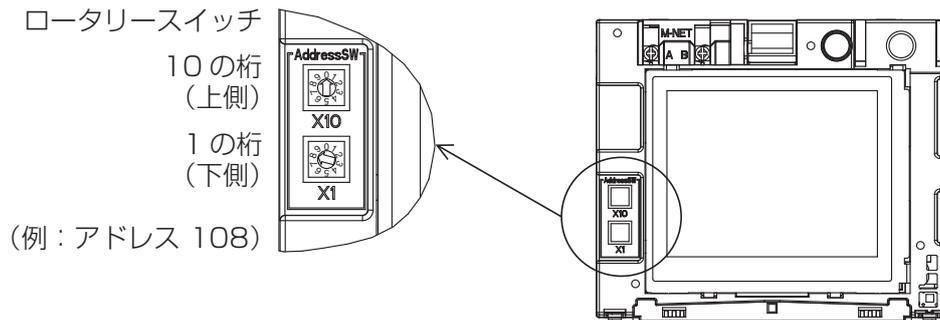
ケーブルの端子台接続に、圧着端子を使用しないでください。圧着端子が基板と接触し、故障したりカバの損傷をきたすことがあります。

端子台に直接力が加わり、ケーブルが断線しないように、ケーブルをクランプで固定してください。

- * 壁面に直接据え付けを行い、壁に穴をあける場合にだけ、次の手順を行います。
- 下ケースのリモコンケーブルを通した穴をパテでシールしてください。



7 M-NET アドレスを設定する



	アドレス設定範囲	設定方法
主リモコン	101 ~ 150	同一グループ内の最も若い室内ユニット親機アドレス + 100 に設定してください。
従リモコン	151 ~ 200	同一グループ内の最も若い室内ユニット親機アドレス + 150 に設定してください。

ロータリースイッチ設定	アドレス
01 ~ 99	101 ~ 199 で 100 の桁は 1 に自動設定
00	200

* ロータリースイッチの工場出荷時設定は 01。

** M-NET アドレスは、リモコンへの電源供給の有無に関わらず変更可能です。

重要

アドレスを設定するには、ロータリースイッチが壊れないように、精密ドライバー [(-), 2.0 mm (W)] を 19.6 N 未満のトルクで使用してください。

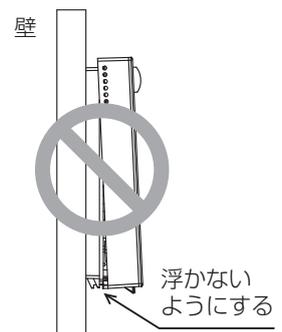
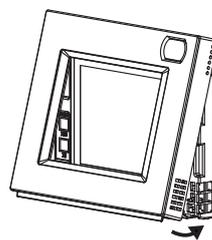
8 上ケースに意匠カバーを取り付ける

意匠カバーの上に 2 つの取付タブがあります。

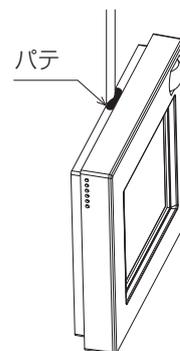
この 2 つのタブを上ケースに掛け、意匠カバーを “パチッ” と音がするまではめ込みます。カバーが正しく取り付けられ、浮きがないことを確認してください。

重要

意匠カバーを上ケースに取り付ける際には、完全にはめ込まれるまで押し込んでください。正しくはめ込まれていない場合、落下して、意匠カバーの損傷、感電などの危険性があります。



- 壁面に直接据え付ける場合（壁伝いにケーブルを配線する場合）
 - 下ケースの切り取り部をパテでシールしてください。
 - ケーブルカバーを使用してください。

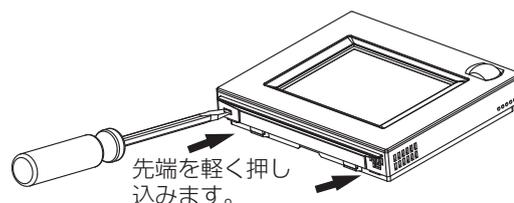


以上で据付工事は完了です。
取り外しは、次の手順に従って行います。

• 意匠カバーと上ケースを取り外す

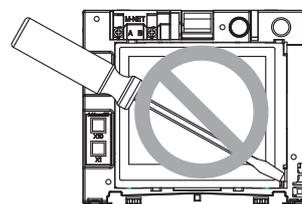
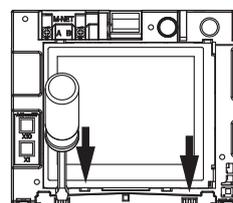
1 意匠カバーを取り外す

右図のように、マイナスドライバー（幅 5.5 mm 以下）を、リモコンの下側のツメ（2ヶ所）に差し込みます。マイナスドライバーの先端を、図の矢印の方向に軽く押し、意匠カバーを外します。



2 上ケースを取り外す

右図のように、マイナスドライバー（幅 5.5 mm 以下）を、リモコンの前側のツメ（2ヶ所）に差し込みます。マイナスドライバーの先端を、図の矢印の方向に押し、上ケースを外します。



重要

幅 4-5.5 mm のマイナスドライバーを使用してください。それよりも細い、あるいは太い刃先のドライバーを使用すると、リモコンのケースが傷つく恐れがあります。

リモコンケースの損傷を防止するため、ドライバーを差し込んだ状態で、無理に回転しないでください。

制御基板の損傷を防止するため、強い力でドライバーを差し込まないでください。

5 重要

- 室温と壁温の差が大きい場合、リモコン設置壁面の表面付近の温度を検知するため、室温と差が出るおそれがあります。

以下のような設置条件の場合、室内ユニットの温度センサ使用を推奨します。

- 室内の気流分布が悪い場合。
- 設置壁面の温度と室温の差が大きい場合。
- 設置壁面の背面が外気に接している場合。

注意：温度が急激に変化する場合、温度が正確に検知されないことがあります。

- 温度センサの設定については、シティマルチの室内ユニットの据付工事説明書を参照してください。
- 工場出荷時、意匠カバーに保護シートを貼っています。使用前に、保護シートをはがしてください。

第2章 初期設定

この章では、据付工事時に設定する項目（初期設定、サービス）について記載します。よくお読みのうえ、設定を行ってください。リモコンの据付方法については、第1章「据付」を参照してください。なお、空調機本体への配線および空調機本体の据付工事に関しては、空調機本体の据付工事説明書を参照してください。据付工事完了後、すべての説明書を忘れずにお使いになる方にお渡しください。

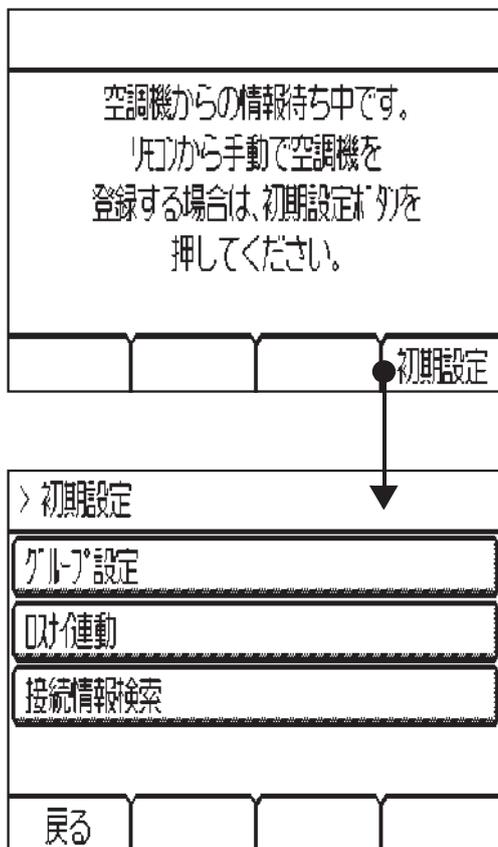
1 初期設定

(1) 初期スタートアップ設定

電源投入前に、据付工事説明書に従って本機、室内ユニット、および室外ユニットの据付工事が完了していることを確認してください。その後、ユニットの電源を投入してください。

- 本書は、ユニットが工場から出荷されてから最初に起動されることを前提としています。設定が一度でも変更された場合は、下の説明にあるポップアップウィンドウや設定画面が表示されないことがあります。

1) スタートアップ画面が表示されます。



[ケース 1] 初期設定（システムコントローラ接続時に実施された初期設定も含まれます）

しばらくすると、自動的にホーム画面に切り替ります。初期設定情報を、必要に応じて変更します。（22ページの「2 メニュー（サービス）」を参照してください。）

* 初期設定が既に完了している場合には、この画面は表示されません。

[ケース 2] 本機からの手動初期設定

[初期設定] ボタンにタッチして、[初期設定] 画面にアクセスします。

「グループ設定」および「ロスナイ連動」の設定が完了したら、[戻る] ボタンをタッチします。システムが起動し、ホーム画面に切り替ります。

(2) 初期設定画面

1) グループ設定

本画面で、本機から制御する室内ユニットの登録を行います。

[グループ設定]			
IC	外し	▼	001 ▲
001 002 003 004	属性	IC	
005 006 007 008	機能	設定	抹消
009 010 011 012			
013 014 015 016			
戻る			

- 1 [アドレス]フィールドで、室内ユニットのアドレスを設定します。

登録可能ユニット数

室内ユニット：最大 16 台

- 2 [設定] ボタンにタッチしてアドレスを登録します。
[抹消] ボタンにタッチすると、アドレスを削除できます。

・アドレス登録 / 抹消の完了時：

登録されたアドレスが、画面の左側に表示されます。

抹消されたアドレスは、画面に表示されません。

・エラー時：

「異常終了しました」または「接続対象ではありません」が表示されます。

2) ロスナイ連動

本画面で、室内ユニットとロスナイユニットの連動を設定します。

[ロスナイ連動]			
001 IC 007 IC	外し1	▼	001 ▲
002 IC 008 IC	外し2	▼	013 ▲
003 IC 009 IC	機能	設定	確認
004 IC 010 IC		抹消	
005 IC 011 IC			
006 IC 012 IC			
戻る			

- 1 ロスナイユニットを登録する

アドレス 1 に室内ユニットのアドレスを設定します。
アドレス 2 に連動設定するロスナイユニットのアドレスを設定します。
[設定] ボタンにタッチして、設定を保存します。

- 2 連動設定を検索する

アドレス 1 に連動設定を検索したいユニットのアドレスを設定し、
[確認] ボタンにタッチすると、連動設定されているユニットのアドレスが左の欄に表示されます。

- 3 連動設定を抹消する

上記の手順 2 を実施後、アドレス 2 に抹消したいアドレスを設定して、
[抹消] ボタンにタッチします。

設定または抹消が正常に完了すると、画面の [機能] フィールドの下に「完了しました」が表示されます。
設定または抹消に失敗した場合、画面の [機能] フィールドの下に「異常終了しました」が表示されます。

3) 接続情報検索

本画面で、各ユニットの接続情報を検索することができます。

[接続情報検索]			
001 IC	外し	▼	051 ▲
002 IC			
003 IC	機能	確認	
004 IC			
005 IC			
006 IC			
戻る			

- 1 [アドレス]フィールドに接続情報を検索したいユニットのアドレスを設定します。

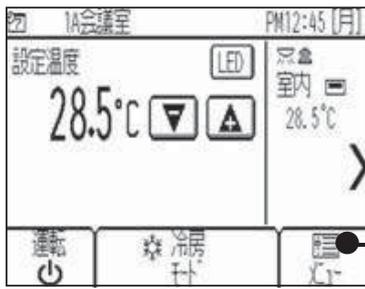
- 2 [確認] ボタンにタッチすると、左の欄に検索結果が表示されます。
(複数のユニットが見つかった場合は、1 ページで表示できないアドレスは次ページ以降に表示されます。)

・検索エラー：

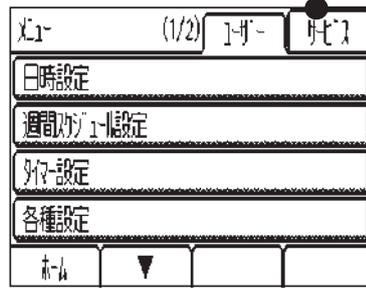
画面の [機能] フィールドの下に「異常終了しました」が表示されます。

設定完了後、[初期設定]画面の[戻る]ボタンにタッチします。「空調機からの情報収集中です。」のメッセージが表示され、しばらくするとホーム画面に切り替わります。
ホーム画面からメニュー(サービス)にアクセスして、必要に応じてその他項目の設定をおこないます。

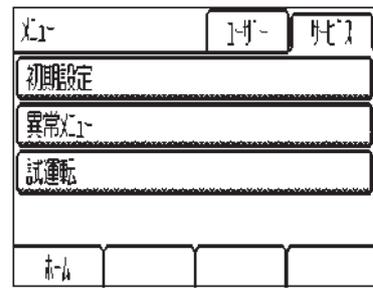
2 メニュー（サービス）



〔ホーム画面〕



〔メニュー（ユーザー）画面〕



〔メニュー（サービス）画面〕

メニュー（サービス）画面、およびメニュー（ユーザー）画面（特定の項目）にアクセスするには、パスワードが必要です。

- 初期サービスパスワードは、「9999」です。初期ユーザーパスワードは、「0000」です。必要に応じてパスワードを変更してください。
- パスワードは、必要な方が分かるよう、適切に管理してください。
- パスワードは、4桁の番号であればどのようなものにも変更可能です。[ログイン]画面で現在のパスワードを入力し、[変更]ボタンにタッチして、新しいパスワードを入力します。
- パスワードを忘れてしまった場合は、マスターパスワードでログインしてください。
マスターサービス/ユーザーパスワード：1056

サービスメニュー項目

項目	詳細	説明	設定	デフォルト	
(1)	初期設定	(a) グループ設定	室内ユニットのグループ設定を行います。	21 ページの (2) 「初期設定画面」を参照してください。	-
		(b) ロスナイ連動	室内ユニットとロスナイユニットの連動設定を行います。		
		(c) 接続情報検索	指定のユニットに接続されているユニットの検索に使用します。		
		(d) 冷 / 暖表示	自動モード運転時に、「自動冷房」または「自動暖房」表示をするか、「自動」のみを表示するか切り替えます。	表示 / 非表示のいずれかを選択します。	自動：表示
		(e) 温度センサ補正	内蔵温度センサの検出値を補正するのに使用します。 *1	補正値を設定します。 (-5°C ~ +5°C) (-10°F ~ +10°F)	補正値：0.0°C (0°F)
		(f) 部屋名設定	部屋名の設定を行います (全角：8文字、半角：16文字)。ここで設定した名前がホーム画面に表示されます。	漢字（登録済みのもののみ）、カタカナ、アルファベット（大文字）、数字、および記号を使用することができます。	空欄
		(g) 電話番号設定	異常発生画面に表示する電話番号を設定します。 (13文字まで)	数字とハイフンが使用できます。	空欄
		(h) 室内ユニット機能設定	本機から室内ユニットの設定を行います。 * 設定項目の詳細な説明については、室内ユニットの据付工事説明書を参照してください。	後述。	-

項目	詳細		説明	設定	デフォルト
(1) 初期設定	(i)	LED インジケータ色調整画面	LED インジケータの色を調整します。*2	R (赤)、G (緑)、B (青) の割合を設定します。	青 : R, G, B=0, 0, 100 水色 : R, G, B=0, 40, 60 紫 : R, G, B=40, 0, 100 赤 : R, G, B=100, 0, 0 ピンク : R, G, B=80, 20, 40 水色 : R, G, B=100, 40, 0 黄 : R, G, B=60, 80, 0 緑 : R, G, B=0, 100, 0 黄緑 : R, G, B=40, 100, 0 白 : R, G, B=80, 100, 40
	(j)	リモコン初期化	リモコンを出荷時状態に戻します*3	[初期化] ボタンにタッチします。	-
(2) 異常メニュー	(a)	自己診断	特定のユニットの異常履歴を確認したり、異常履歴をリセットするのに使用します。*4	対象ユニットを設定し、異常履歴を表示する。 [リセット] ボタン : 異常履歴を消去します。	-
(3) 試運転			空調ユニットの試運転に使用します。 試運転中は、室内ユニットの液配管温度が表示されます。試運転は、2 時間で自動的に終了します。	試運転 指定されたアドレスの室内ユニットの液配管温度を表示します。	-

*1 室内ユニットの温度センサを使用している場合、有効になりません。

*2 空調ユニットの運転モードまたは室温を、色で表示することができます。取扱説明書の「LED インジケータ」を参照してください。

*3 すべての設定情報が、出荷時状態になります。

*4 異常履歴は、最新の異常履歴を表示します。

[停電時のデータバックアップ]

(1) - (j) リモコン初期化および (3) 試運転を除き、その他の設定内容は、停電時でもバックアップされています。

(1) - (a)、(b)、(c)、(h)、および (2) - (a) の設定内容は、空調機側でバックアップされません。

(1) 初期設定メニュー

(a) グループ設定

21 ページの (2) 「初期設定画面」を参照してください。

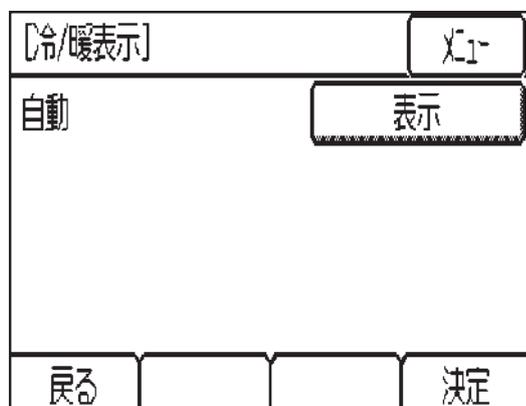
(b) ロスナイ連動

21 ページの (2) 「初期設定画面」を参照してください。

(c) 接続情報検索

21 ページの (2) 「初期設定画面」を参照してください。

(d) 冷 / 暖表示



(e) 温度センサ補正



* [補正前の温度] フィールドの温度は、リモコンの内蔵温度センサで測定された温度です。

** 補正値が変更された場合、ホーム画面の温度表示に変更が反映されるまで、最長で1分かかります。

(f) 部屋名設定



(全角 8 文字、半角 16 文字まで)

(g) 電話番号設定

[電話番号設定]						X1-
0-12-345-6789						< > Del
1	2	3	4	5	6	
7	8	9	0	-		
戻る			決定			

(13文字まで)

(h) 室内ユニット機能設定

[室内ユニット機能設定]				X1-
M-NETアドレス	▼	001	▲	
機能設定No	▼	100	▲	
機能設定値	▼	1	▲	
機能	設定 確認			
戻る				

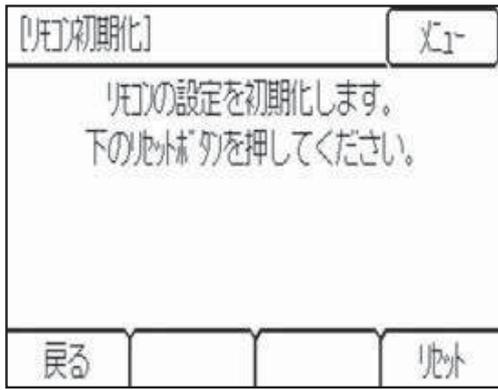
- 1 [M-NET アドレス] フィールドで、室内ユニットのアドレスを選択します。([Grp] が選択された場合は、コントローラから制御されるすべての室内ユニットが選択されます。)
- 2 [機能設定 No] フィールドで目的の機能番号を選択します。
- 3 [確認] ボタンにタッチして、現在の設定を確認します。室内ユニットの現在の設定を取得し、結果が [機能設定値] フィールドに表示されます。
- 4 [機能設定値] フィールドに設定する目的の機能に対応する番号 * を選択します。
* 室内ユニットのマニュアルを参照してください。
- 5 [設定] ボタンにタッチして、室内ユニットに設定を保存します。
 - 完了時：
「完了しました」が表示されます。
 - エラー時：
「異常終了しました」が表示されます。

(i) LED インジケータ色調整画面

[LEDインジケータ色調整画面]		X1-
色	白	
赤	▼	042 ▲
緑	▼	070 ▲
青	▼	028 ▲
戻る	リセット	決定

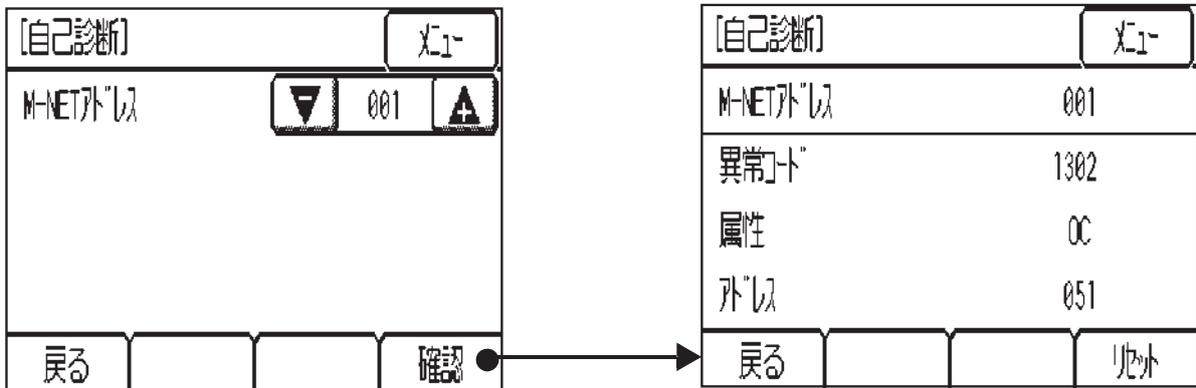
赤、緑、青：「+」…濃くする、「-」…薄くする
リセット：表示色をデフォルト設定に戻します。

(j) リモコン初期化

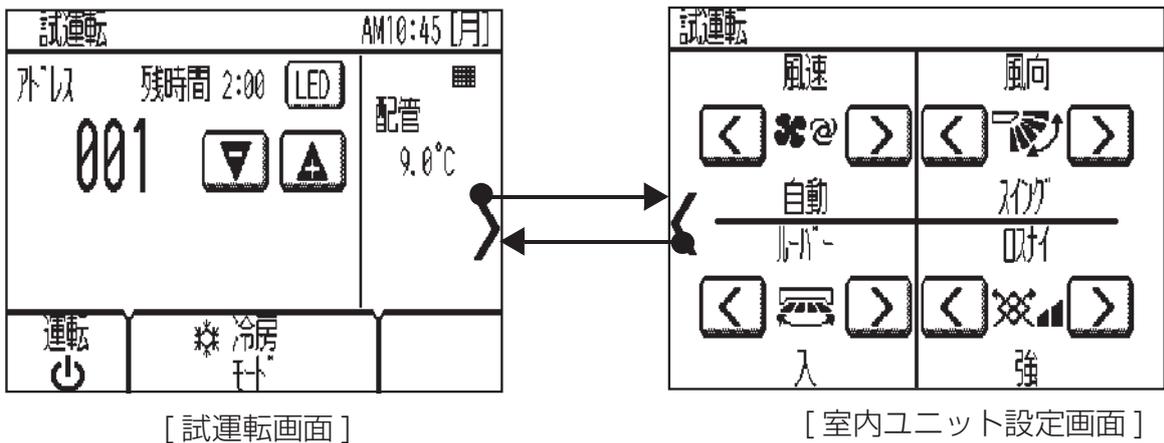


(2) 異常メニュー

(a) 自己診断



(3) 試運転



- 1) 試運転を行う前に、室内ユニットの据付工事説明書の試運転についての節をお読みください。
- 2) 試運転中、室内ユニットはサーモオン状態で強制的に運転されます。設定温度を除き、通常動作機能は試運転中でもアクセス可能です。
- 3) 他の室内ユニットのアドレスを選択することで、選択されたユニットの液配管温度をモニターできます。
- 4) 試運転は、2 時間で自動的に終了します。

仕様			
電源		DC17-32 V*1 (M-NET 接続のみ)	室外ユニットから M-NET 伝送線を介して受電。 本機の消費電力係数 ^{*2} は「2」です。
使用環境	温度	使用温度範囲	0°C ~ +40°C
		保管温度範囲	-20°C ~ +60°C
	湿度	20% ~ 90% RH (結露なきこと)	
質量		0.3 kg	
外形寸法 (幅 x 高さ x 奥行)		140 x 120 (123) x 25 (28.8) mm * 括弧内の数値は、突起部を含めた寸法です。	

*1 市販の DC 電源装置は使用できません。

*2 「消費電力係数」とは、M-NET 伝送線から受電し動作する機器の消費電力を表す係数です。
本マニュアルの第 1 章の第 3 節「システム図」を参照してください。



- この据付工事説明書は据付後お客様にお渡しください。
- ご不明な点に関するご相談はお買上げの販売店または三菱電機冷熱相談センターにお問い合わせください。

三菱電機冷熱相談センター

0037-80-2224(フリーボイス)/073-427-2224(携帯電話対応)

FAX(365日・24時間受付)

0037(80)2229(フリーボイス)・073(428)-2229(通常FAX)



〒100-8310 東京都千代田区丸の内2-7-3(東京ビル)
〒640-8686 和歌山市手平6-5-66冷熱システム製作所(073)436-2111

WT07129X01